

あいち病害虫情報 最新情報

令和2年7月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

6月下旬から梅雨前線や低気圧の影響で雨の日が多く、7月に入ってから日照時間が平年よりかなり少なくなっています。

7月16日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、期間の前半は引き続き降水量が多く、日照時間が少ない見込みです。また、期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多くなりそうです。

いもち病

7月上旬の巡回調査では、葉いもちの発生量は過去10年で最も多い状況です。さらに、BLASTAMによるいもち病（葉いもち）感染好適日の推定結果では、県内各地で葉いもちの感染好適日が複数回観測されています。7月16日名古屋地方気象台発表の週間天気予報によれば、向こう1週間も曇りや雨の日が多い見込みであるため注意が必要です。詳細は、本日発表の「令和2年度病害虫発生予察注意報第4号」を参照してください。

斑点米カメムシ類

予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺数は、海部地域、東三河地域で6月第5半旬から第6半旬に一時多くなりました。また、西三河地域では平年と比較してミナミアオカメムシが多く誘殺されています。7月上旬の巡回調査では、斑点米カメムシ類の捕獲数は水田内で平年並、畦畔雑草でやや多い状況です。コシヒカリは7月下旬から、早生種は8月中旬から出穂する見込みです。出穂2～3週間前までに畦畔雑草の除草を行いましょう。詳細は、本日発表の「令和2年度病害虫発生予察注意報第5号」を参照してください。

ウンカ類

セジロウンカは、7月上旬の巡回調査で、104ほ場中、25ほ場で発生を確認し、発生量は平年並です。予察灯ではこれまで尾張地域で6月第3半旬に1頭、東三河地域で7月第1半旬から第2半旬にかけて合計7頭誘殺されています。

トビイロウンカは、7月上旬の巡回調査で、104ほ場中、岡崎市、新城市、豊川市の4ほ場で合計6頭捕獲されており、発生量は過去10年間で最も多いです。予察灯では、7月第2半旬に尾張地域で1頭誘殺されました。

セジロウンカとトビイロウンカは、ほ場ごとで発生密度に差があるので、ほ場をよく観察し、今後の発生に注意してください。詳細は、本日発表の「ウンカ情報第2号」を参照してください。

コブノメイガ

7月上旬の巡回調査において、県内各地のほ場でコブノメイガの食害を確認しています。幼虫はイネの葉を1枚ずつ縦にたたんで糸で綴り筒状にするか、まれに2～3枚を合わせてつと状にし、その中で表皮を残して食害します。また、成虫は黄褐色の小型の蛾で、前後翅に特徴的な黒褐色の縦条線を持ちます。7月下旬から8月上旬にかけて次世代の成幼虫が多発する可能性があるため注意しましょう。詳細は、本日発表の「コブノメイガ情報第1号」を参考にしてください。

ダイズ・野菜類・花き類のチョウ目害虫

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並ですが、安城市で6月第4半旬に、長久手市、碧南市で7月第1半旬から第2半旬にかけて誘殺数が急増しました。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は6月下旬に一部地域で多くなりましたが、現在はおおむね平年並です。今後の発生動向に十分注意し、早期発見、早期防除に努めましょう。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、近年多い傾向を示しています。今年の誘殺数は現在おおむね平年並ですが、一部地域で誘殺数が多くなっています。今後の発生に注意しましょう。

ブドウの病害

6月後半から半旬ごとの平均気温が22～25℃で、降雨日が多く日照時間が少ない状態が続き、べと病の発生に好適な条件となっています。降雨の合間を見て、薬剤防除を徹底しましょう。

晩腐病は、巻きひげなどに潜んでいる病原菌から降雨により胞子が飛散し、果実に感染します。また、発病した果実からも胞子が飛散して葉や新梢に感染し、次作の伝染源になります。発病果実は見つけ次第取り除きましょう。

ウンシュウミカンの病害

黒点病の胞子は気温が20～27℃で発芽し、降雨により感染が拡大するので、6月後半からの気象状況は、感染に好適な条件になっています。本病の伝染源は、枯れ枝で形成された病斑です。薬剤防除を実施するとともに、枯れ枝も除去しましょう。剪定した枯れ枝からも胞子が飛散するため、除去した枝は園外へ持ち出し、処分しましょう。

そうか病は、生長が止まった葉には感染しにくくなりますが、この時期に伸長する夏枝や果実は感染し続けます。降雨が多く日照時間が少ないため軟弱に育ち、本病の感染しやすい状態になっています。降雨の合間を見て、薬剤防除を徹底しましょう。

ナシ黒星病

黒星病の発生ほ場では、伝染源となる発病葉や発病果を除去して適切に処分しましょう。この時期は二次伸長した枝にある若い葉に発生していることが多いので、若い葉を中心に注意深く観察しましょう。農薬の使用にあたっては、耐性菌の発生を避けるため、同一系統薬剤の連用を控え、異なる系統の農薬をローテーション散布しましょう。

モモせん孔細菌病

連続した降雨があった影響で、せん孔細菌病が今後多発する可能性があります。この時期に形成された夏型枝病斑では、活発に病原菌が増殖、漏出しています。これが感染源になるので、見つけ次第切除し、ほ場外へ持ち出し処分しましょう。次作への越冬源量を増やさないためにも、収穫後の秋防除を行いましょう。

果樹カメムシ類

チャバネアオカメムシの誘殺数は、予察灯、フェロモントラップともに7月に入ってからおおむね平年並で推移しています。今の時期、チャバネアオカメムシはヒノキやスギの球果などを餌として生育しており、これらの球果を食べ尽くすと、餌を求めて果樹園へ飛来します。果樹園への飛来状況に注意し、必要に応じて防除しましょう。近日発表予定の「果樹カメムシ情報第2号」で、7月中旬のヒノキ球果におけるチャバネアオカメムシの

生息状況等を掲載する予定ですので、参照してください。

チャノキイロアザミウマ

本虫の防除適期は、成虫発生ピークの時期です。アメダス観測地点において有効積算温度を利用した成虫発生ピークの予測日（下表）を参考に防除を実施しましょう。

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第3世代	7/7	7/6	7/2	7/2	7/7	7/8	7/6	7/6	7/10	7/5	8/1
第4世代	7/27	7/26	7/22	7/23	7/27	7/27	7/26	7/26	7/30	7/25	8/22
(前年)	7/30	7/31	7/25	7/26	7/30	8/1	7/31	7/30	8/4	7/30	8/4※
前年差	3日早	5日早	3日早	3日早	3日早	5日早	5日早	4日早	5日早	5日早	3日早※
第5世代	8/13	8/13	8/8	8/9	8/13	8/14	8/12	8/12	8/17	8/12	9/16

各地のアメダス平均気温から予測。※稲武については、第3世代の前年ピーク日と前年差。
7月15日までは実測値を、それ以降は平年値（豊橋、大府は前年値）を用いて計算。

トマト苗へのコナジラミ類の寄生を防ぎましょう！

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミ、トマト黄化病の病原ウイルス（ToCV）を媒介するタバココナジラミ及びオンシツコナジラミが露地で活発に活動する時期です。育苗時におけるウイルス病の感染防止のため、コナジラミ類に効果のある粒剤を施用するとともに、侵入防止対策として、育苗施設の施設開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を設置しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、HP「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820